



TOHOKU EPO通信

[エポ]
東北環境パートナーシップオフィス



vol. 14



グリーンサンタ®が被災地の小学校・幼稚園を訪問（コーディネート協力：EPO東北）

Contents

※ 環境復興再生プロジェクト

- 「被災後の南三陸町における里海復興活動」
- 「食・農・村の復興支援プロジェクト」
- 「WWF暮らしと自然の復興プロジェクト」

※ EPO東北活動トピックス

※ 復興支援 recycle goods

※ 東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

環境復興再生 PROJECT

3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方では大きな被害を受けました。

特に大津波に襲われた太平洋沿岸はその景観を大きく変えました。海岸の松林はことごとくなぎ倒され、田んぼは海水による塩害で作付けができなくなりました。

「何かしなければ」という多くの思いから新たなプロジェクトが生まれ、各地で環境復興再生に向けた活動が進められています。今号ではその中のいくつかをご紹介します。

被災後の南三陸町沿岸の里海復興活動

団体名/NPO法人 環境生態工学研究所 理事/佐々木久雄 住所/〒984-0051 仙台市若林区新寺一丁目5-26-104
電話/022-293-2281 FAX/022-349-9574 e-mail/e-tec@world.ocn.ne.jp URL/http://www17.ocn.ne.jp/~e-tec/

2011年3月11日に大津波におそわれた沿岸地域では、多くの人命や財産を失ったものの、多くの支援の下に少しずつではあるが復興への歩みが進み始めている。しかし津波の被害は陸上だけにとどまらず、人々の生活や産業の基盤となっていた沿岸生態系にも多大な影響をもたらしているものと考えられた。南三陸町の沿岸の海は、海藻(草)群落



かるうじて生き残った志津川湾のアマモ



比較的復活の早いアカモク群落

が豊富で規模の大きい藻場が発達した理想的な里海として、住民の誇りであり生活の基盤であった。その生態系が津波によって破壊され、加えて下水処理場など環境インフラの破壊による水環境の悪化が懸念され、自然浄化能力の早期の復活、海の生物のゆりかごとなる藻場の再生は、里海の復興に欠くべからざるものと考えている。

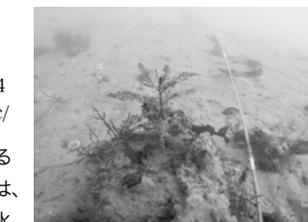
そのため、我々は三井物産環境基金(東日本大震災復興助成金)を利用させていただき、沿岸水域の藻場の被害状況を把握するとともに、藻場再生の適正化モデルを

適用し、効率的に藻場を再生する活動を進めている。藻場の再生には、水質や底質の化学的環境質や、水深や底質の粒度組成など物理的環境質が、生育に適しているか否かが重要な要素になる。現状では、底質の変化や地盤沈下で水深が深くなった地点が多く、そのまま再生可能かどうか慎重な検討が必要である。

潜水調査の結果に寄れば、ワカメ、アラム、ホンダワラ類よりは、砂泥質に地下茎をのばし繁茂していたアマモ類の被害が大きく、津波が底泥(砂)ごと押し流した結果と考えられる。今後、地元漁協、町役場、学生など地元ボランティアを核とした藻場再生グループを結成し、藻場を広げる活動を推進し、さらにアカモクなど未利用海藻資源を利用した商品作りなども企画して行く計画である。藻場の再生が、水産資源の



陸上被害の大きかった水尻川河口付近



がれきに付着したアカモク幼苗

再生維持に役立ち、持続可能な水産業の確立を可能にさせる。さらにアカモクの加工品の開発、販売など地場6次産業を創出し、それを支える「里海の復興」を支援していきたい。

皆様のご協力を願うものである。

農業・農家の復興再生を目指す

『食・農・村の復興支援プロジェクト』

団体名/食・農・村の復興支援プロジェクト(東北大学大学院農学研究科内) 事務所/宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町1-1
電話/022-717-8603 URL/http://www.agri.tohoku.ac.jp/agri-revival/ および http://www.agri.tohoku.ac.jp/health/nanohana/katsudo.html



東北大学農学研究科では震災復旧作業に追われる中、3月23日に「食・農・村の復興支援プロジェクト(ARP)」を立ち上げた(総勢53名)。プロジェクトでは、メンバーの専門分野を公表し、支援希望者を募って、研究者または研究グループの紹介、被災地と研究のマッチング、報告会やインターネットなどによる情報発信を行ってきた。

たとえば、「マガキ養殖復興支援プロジェクト」では、壊滅的被害を受けたカキの種苗生産を軌道に乗せるために、産官の調整役を果たし、種苗の安全性の確認作業も担当して、短期間での種苗生産の復旧を可能にした。また、「福島原発20km圏内に取り残されたウシの保護プロジェクト」では、ウシを実験・展示用途に転換して一時保管を開始している。

「津波塩害農地復興のための菜の花プロジェクト」では、震災直後に津波被災農地の調査を行い、被害状況を明らかにした。また、農

学研究科が保有する世界で唯一のアブラナ科作物のジーンバンクから塩害に強いアブラナ科作物を選び、農地の被災状況に合わせた農業復興を行うことにしている。目標は、アブラナ科作物の安定的生産方法および栽培体系の確立、燃料用および食用なたね油、食用の雪菜や菜の花の販売方法の確立、なたね油からのバイオディーゼル燃料生産等のエネルギーの地産地消システムの構築である。

現在、選抜した耐塩品種を塩害農地(仙台市約40a)に播種し、生育を観察しており、一部は食用販売(岩沼市1.4ha)に向けて動き出している。今年度は作付け作業など、総計200名を超すボランティアに参加いただいて取り組んできた。次年度以降も「菜の花」をキーワードに、広い視野から農業復興に取り組んで行く。なお、開花(4~5月)に合わせて、写生会および撮影会、収穫(6~7月)後になたね油を絞って、まさに「復興の灯火」を灯す会を計画している。





「WWF が支援する暮らしと自然の復興プロジェクト」

団体名 / WWF ジャパン 住所 / 東京都港区芝3-1-14 日本生命赤羽橋ビル
電話 / 03-3769-1711 e-mail / communi@wwf.or.jp URL / http://www.wwf.or.jp/shinsai/

WWFは、人と自然が調和して生きられる未来を目指して、世界約100カ国で地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践している環境保全団体。希少な動物の保護から始まった活動は、人間と自然環境が共存できる持続可能な環境の保全に範囲が拡大している。取り組む課題は、気候変動・エネルギー問題をはじめ、生態系の保全、人間の消費活動のあり方まで多岐にわたり、科学的な根拠に基づく情報を提供しながら、国際・国内交渉の場などを通じて持続可能な社会の仕組みづくりに力を注いでいる。

国内で特に力を注いでいるのが、東日本大震災「暮らしと自然の復興プロジェクト」。復興に際して、単に震災前の暮らしに戻すのではなく、環境保全を考慮に入れた持続可能な産業とそれに基づく人の暮らしの確立を目指す活動である。この活動は2本の柱で構成されている。1つは、



自然エネルギーを通じた持続可能な社会をめざし、被災地に太陽光発電で電気を灯し、バイオマスと太陽熱温水でお湯を供給する、東日本大震災「つながり・ぬくもりプロジェクト」との協働だ。これまでに宮城県



南三陸町戸倉地区や石巻市湊町の避難所への支援を実施してきた。今後は、水産業の復興の基盤整備に役立つ、自然エネルギー・インフラの導入をめざして活動を展開していく。

もう1つは、被災地の水産業の復興とそれを支える沿岸域の生物多様性の回復。生物多様性が高く水産業が地域産業の基盤となっている2つのモデル地区（宮城県南三陸町戸倉地区と福島県相馬市松川浦）を決め、自然環境および社会経済について調査や科学的情報を収集し、震災による変化とその影響を把握し、関係者と情報を共有している。今後は、自然環境の回復と水産業の復興に必要な課題を整理し、漁業者による持続可能な水産業への取り組みを応援するとともに、流通や販売に関わる企業・消費者・行政へも協力を働きかけていく。

EPO東北活動トピックス

「菜の花交流会」を開催しました 高校生が主役、ESD推進セミナー

EPO東北では、去る1月23日(月)、「菜の花交流会」を開催いたしました。東北地区で耕作放棄地等で菜の花を栽培し、菜種からの搾油、販売、回収、BDF精製・利用といった循環型社会の推進に携わられている団体に参加いただき、それぞれの活動に関する情報を共有しながら、連携や協働の可能性などを探る意見交換を行いました。

参加団体の自己紹介の後、東北農業研究センターの方から「国産なたね生産・流通の現状」、「なたね搾油の歴史と現在」と題し話題提供をいただきました。フリーディスカッションでは、団体間で活動に関する活発な意見交換が行われ、活動の経緯、規模、目的等も団体ごとに様々であることから、「お互いに他の団体の活動を知ることによって今後の活動に有意義な場であった」「今後も継続して開催して欲しい」といった声が寄せられました。



1月28日(土)、青森市で「ESD推進セミナー in あおり 広げよう“青森力”育てよう高校生の“環境力”」を開催しました。

青森県立五所川原農業高等学校、青森県立弘前実業高等学校藤崎校舎に通う高校生達が、環境調査や環境保全活動の取り組みについて発表を行いました。青森県中西部を流れる一級河川「岩木川」の水質調査の結果、植樹や間伐利用などの森林保全活動、ウニ殻肥料を使った野菜栽培研究について、計3グループが活動を発表しました。また、青森県立五所川原農業高等学校では宮城県農業高等学校と交流があり、東日本大震災後も互いに訪問するなど交流を続けています。宮城県農業高等学校の被災した校舎見学と、交流した時の生徒の様子についても報告がありました。

特別講演ではNPO法人森は海の恋人副理事長畠山信氏をお招きし、森・里・海循環学についてお話いただきました。まさに自分達の活動とつながる講話に、高校生達にとって良い刺激となったようです。会場からは「高校生が自らの足で調査や環境保全活動を行う活動力に感動した」「畠山さんのお話しがとても素晴らしかった」と感想をいただき、特にNPOの方は自分達ももっとがんばらねばと思いを新たにしていました。



参加団体

- (青森県) NPO法人菜の花トラスト in 横浜町
- (岩手県) 雫石町福祉作業所 かし和の郷・しずくいし・菜のテクノロジープロジェクト
- (宮城県) NPO法人エコショップかくだ・菜の花部会
- (宮城県) 有限会社 千田清掃・有限会社 千田環境社
- (秋田県) NPO法人あきた菜の花ネットワーク
- (山形県) かねやま新エネルギー実践研究会
- (福島県) 会津若松市菜の花フェスティバル実行委員会



復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ
(マイバッグなど)

1

米工房いवाई 復興支援米

米工房いवाईは、お客様と共に、被災された方々の「少しでも何かお役に立ちたい、そして継続して応援していきたい」そんな思いから復興支援米運動を考えました。

当社の商いの原点でもある「米」。そして食を通じ復興へ向けて「希望」「活力」支援して下さった皆様の「願いや思い」を直接届けたいという思いから、お米をお米で支援させていただくことに決めました。

復興支援米は、宮城県産ひとめぼれを100%使用し、お客様に5キロお買い上げいただくごとに、300gを当社が負担し、仮設住宅に入居されている方々に支援させていただきます。

一定量に達しましたら、直接被災された方々へお届けさせていただきます。

値段：5キロ：2,000円（税込）

<http://www.kome-iwai.com/support.html>



2

まどか荒浜 福幸だるま



社会福祉法人 円「まどか荒浜」さんの作る「福幸だるま」です。障害者のかたの就労支援事業施設として若林区荒浜で活動されていたのですが、海に面していたところのため津波被害に遭い、施設は全壊。現在は仙台市太白区で活動されています。

その活動で制作されているのが、この「福幸(ふっこう)だるま」です。まゆ玉をつかった起き上がりこぼしで、ひとつひとつ手作りで作られています。ですので表情が少しずつ違ってきます。

「廃墟の中から フェニックスのように立ち上がり 人生を切り開く気概を奮い起こせ」と願いを込めて ひとつひとつ丁寧に作られました」

価格：600円

〒981-1102 仙台市太白区袋原5-12-1 仙台ワークキャンパス内

TEL022-302-4620 FAX022-302-4621

Email madokaarahanma@yahoo.co.jp

3



がれきのキーホルダー

所有者の許可をいただき、津波で流されたガレキを拾い集めます。一言でガレキと言いますが、被災された方々の思い出の詰まった財産です。

その貴重なガレキを加工し、焼印をつけ、キーホルダーにしています。思いを込めて『和』の文字と、『釜石』『大槌』『陸前高田』、『2011.3.11』の焼印をつけました。(RING-PROJECTのHP参考)

・RING-PROJECT

「<http://www.ring-project.jp/index.html>」

・復興サポートショップ『和』

「<http://fukkou-ring.shop-pro.jp/>」

・遠野時間@Shop

「<http://tonojikan.shop-pro.jp/>」

4

CHALLENGE TO CHANGE エコバッグ

ランチバッグタイプのエコバッグです。船底になっているので、お弁当などの平置きにも対応しており、ペットボトルやタンブラーも入れていただけます。

取り出し口も広く、出し入れも簡単です。素材はコットンで肌触りもよく、普通の持ち手では手荒れになる方には特におすすめです。

価格：1,000円（消費税込み）

ご購入代金の50%を災害復興支援の為に用いさせていただきます。

<http://ctcjapan.org/novelty.html#section-04>



地域資源に根ざしたエコツアーと環境教育

青森県の豊かな自然環境を生かした自然体験活動の提供から、持続可能な地域づくりへ。

1983年東京でのサラリーマン生活を辞め、自然の中での生活を求め岩木山麓の自然真っ只中へ移り住みました。生活の糧として小さなペンションを開業し、当時から登山ガイド、山菜取り、溪流釣りなどお客様に対し自然体験プログラムを提供していました。すでに29年前から自然学校を行っていたのです。しかしそれは、自分たちの生活を支える為でした。



世界遺産白神山地エコツアー

それから14年、確かな使命を掲げ1997年岩木山自然学校を開校しました。それは、地域資源に根付いた体験活動を進めることから、地域が元気になる持続可能な地域づくりを進めることができると確信したからです。地方に住む者は、東京に価値観を求め、足元の価値ある資源に気がつかない構造がいつもありました。そして、グローバル経済に翻弄され、限界集落というレッテルを貼られ、ますます元気をなくし希薄感漂う田舎となってしまったのです。私は、移住者としてよそ者目線で地域資源を掘りおこし、都市部からの来訪者にエコツアーとして体験して戴くようになりました。子ども達の体験教育も自然学校の重要なミッションです。素晴らしい自然環境の中、様々

東北6県 青森 EPOトピックス

NPO法人岩木山自然学校

- TEL : 0172-83-2670
- FAX : 0172-83-2675
- HP : <http://infoaomori.ne.jp/pensionwonderland/>
- E-mail : pwonder@infoaomori.ne.jp
- 寄稿 : 理事長 高田 敏幸 氏



川環境を学ぶカヌーツアー

な体験を通し田舎の暮らしや自然を理解し、未来を切り開くことができる人材の育成に努めています。3.11東日本大震災の支援活動では、自然学校の持つ知識や能力が発揮されました。これからの自然学校は、まさに地域の要となる重要な組織となつて行ければと思っています。

NPO法人遠野エコネットの活動について

自然と共生する持続可能な里づくりを求めて

遠野エコネットは、平成5年に任意団体として設立。一昨年よりNPO法人化した市民環境団体です。これまでの主な活動としては、水辺のエコマップ作り、「遠野物語」エコツアー、ごみ川柳大会、自然栽培農業講習会、四季のエコキャンプ、水源の森づくり、森のようちえん、キャンドルナイト、自然体験指導者養成講座、エコセミナー、環境関連映画上映会、間伐材を活用した薪の駅、他。こうして列挙すると、実に多様な活動をしてきていると、我ながら驚いてしまいます。ただ、どれも中途半端になっているのかなあと、反省もいっぱいです。この他に、昨年より三陸被災地の支

援として、遠野被災地支援団体ネットワーク「遠野まごころネット」の設立に加わり、当初は物資の配達や御用聞き、その後はこれまでの活動を活かし、薪風呂の提供、種や苗とプランターの配布、菜園作りなどを支援してきました。被災地を訪ね、津波により町がなくなった状況を目の当たりにして、「世界に誇れる町をここにつくれないか」と考えました。そこで、「自然と共生する持続可能な里」として被災地が復興することを願い、世界の叡智を集める場を持ちたいと考え、昨年2回のプレフォーラムを含めて「三陸エコビジョンフォーラム」を開催しました。これは、

東北6県 岩手 EPOトピックス

特定非営利活動法人遠野エコネット

- 〒028-0661 岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛 19-530
- TEL : 0198-64-2250
- FAX : 0198-64-2250
- E-mail : pahaya@tonotv.com
- 寄稿 : 代表理事 千葉 和 氏

この後2年間継続して開催予定です。ここで得た知見とネットワークをフルに活用し、今後、被災地域が世界中から訪れたいくなる、また、住んでみたくなる里として復興するための一助となる活動ができればと考えています。



宮城大学 南三陸町コミュニティ復興支援プロジェクト

地域コミュニティの再生や地域産業の復興を支える拠点「復興ステーション」を南三陸町内に設置。木質バイオマス利活用に取り組みます。

東日本大震災により南三陸町は、その市街地の大部分が壊滅する大きな被害を受けました。宮城大学では、平成22年10月に南三陸町と連携協定を締結していたことから、震災直後より震災復興計画の策定支援や、コミュニティの維持・再生に向けた「復興まちづくり推進員」の派遣など様々な支援活動を行ってきました。



住民と復興計画について話し合う

今後長期にわたる復興のプロセスの中で、継続的な支援を行っていくため、本学では、平成24年1月に南三陸町入谷地区にある「校舎の宿 さんさん館」内に支援拠点「南三陸復興ステーション」を開設しました。このステーションを拠点として、里山や漁村の生業を再建する「山の暮らし・海の暮らしの再生支援事業」や、震災体験を教育資源として人づくり・地域間連携につなげる「復興教育ツーリズム開発事業」、町の全域で復興に向けた多様な学びの機会を提供する「南三陸サテライトキャンパス事業」といった事業を、学生・教職員が丸となって推進しています。

これらの事業をつらぬく理念の1つに

東北6県 宮城 EPOトピックス

公立大学法人宮城大学

- 〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1-1
- TEL: 022-377-8319
- FAX: 022-377-8421
- HP: <http://www.myu.ac.jp/>
- E-mail: jigyobu@myu.ac.jp
- 寄稿: 地域連携センター 地域振興事業部 高田 篤 氏



校舎の宿 さんさん館

「環境」への視点があります。震災による被害を受けながらも、潜在的に豊富な環境資源を有する地域特性を活かして、まずは、復興ステーション内に、薪ストーブや木質バイオマス発電機を設置、木質バイオマスの利活用、エネルギーの地産地消に向けたモデル事業を行います。施設見学大歓迎ですので、お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

雄物川の自然環境保護に 取り組んできたこの9年間と今後の活動

カヌーを利用した川遊びから見えてきた雄物川の中途半端でないごみ多さと秋田の県民性



平成15年6月に雄物川の自然環境保護を目的としたNPO法人を立ち上げて、今年で10年目に入りました。この間クリーンアップ64回、参加者述べ4271名、集めたゴミは70ℓ袋で4886袋になりました。そのほかにも自然観察会や子供の安全講習会、その他要請イベントなど合わせるとこの9年間に444回、

参加者も17545人になりました。

当初はNPOを立ち上げたのだから環境保護活動をしなればいけないと考え、クリーンアップの参加を求めましたが参加してくれる一般の方はいませんでした。

メンバーでコツコツやっていましたが自然観察会と称してカヌーで遊びませんかとお誘いしたら多くの方が参加し、クリーンアップも一緒に行うことがうまくいくことがわかりそれ以来参加する方も増えていきました。環境保護を前面に出すよりも遊びを出したほうが人は遊びながらも少しいいことをしたという気持ちがかいようです。秋田県から海岸漂着物発生抑制啓発事業を平成22、23年と

東北6県 秋田 EPOトピックス

NPO法人秋田パドラーズ

- 〒010-0921 秋田市大町1-2-7
- TEL・FAX: 018-863-1166
- HP: www.cna.ne.jp/~akita-pa
- E-mail: akita-pa@cna.ne.jp
- 寄稿: 理事長 船山 仁 氏

受託し5回イベントを開催し、アルピニストの野口健さんや女優の加藤夏希さんと呼んでのピックイベントも行いました。これまでの経験を生かしごみを減らす為の取り組みとして、ごみの写真コンテストやペットボトルなどのリサイクル、日漂着ゴミによるオブジェなどの制作大会なども考えて行ってまいります。





東北・夢の桜街道

～復興への祈りを捧げる桜の札所・八十八カ所巡り～

山から海へ、人から人へ、過去から未来へ～いのちの水をつなぐ100年プラン
新しい公共を担う「美しい山形・最上川フォーラム」

山形県の「母なる最上川」をシンボルに、美しい自然を次世代に引き継ぎながら、住民が交流し生きがいのある美しい元気な山形を目指して、平成13年7月に発足し、10周年を迎えました。新しい公共の先駆的団体として、産学官公民による約5000会員がイコールパートナーで活動する全県の組織です。

河川等の県内一斉水質調査や、ゴミ拾いのクリーンアップ活動、桜の植樹・手入れの最上川夢の桜街道®づくり、写真コンテストなど、水辺を美しくする活動を続けてきました。更に、捨てられないゴミ発生源対策として、ゴミを流さない運動や、森林整備と木造建築による街づくりの検討、そして海岸

ゴミ対策へステップアップしています。最上川に沿って森林から海岸まで繋がり、住民が環境・文化・経済活動に集い元気な地域をつくっています。

昨年10月、東日本大震災復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道～復興への祈りを捧げる桜の札所・八十八カ所巡り～」を、東京の連携団体である美しい多摩川フォーラムと共に始動しました。愛する桜を

シンボルに、東北の桜の名所88カ所を札所に選定し桜旅をPRし、足を運んでもらう10年継続プロジェクト



東北6県 山形

EPOトピックス

美しい山形・最上川フォーラム

- 〒990-0041 山形県山形市緑町1-9-30 緑町会館
- TEL : 023-666-3737
- FAX : 023-666-3738
- HP : <http://www.mogamigawa.gr.jp/>
- E-mail : info@mogamigawa.gr.jp

トです。毎年春に復興への願いを携えて札所を巡り、「桜を愛する心で東北を愛する」力強い支援活動です。

新たな10年に向かって、新しい公共の役割を強化し、美しい元気な地域づくりに貢献していきます。

平成20年度 水環境文化賞、平成21年度 日本水大賞奨励賞受賞。

残そう美しい地球！次代を担う子ども達に

みんなで考えよう「環境・いのち・未来」

■活動の経歴

私たちの団体は、1992年「会津若松市環境フェスティバル実行委員会」として、市民の方に環境の大切さを広く知ってもらうため、市民団体・行政・企業が集まり、1年に一度の祭典として、「環境フェスティバル」の開催を目的に、実行委員会として発足しました。その後、もっとできることがあるのではないかと「環境未来・あいづネットワーク」と名称を変更し、再出発をしました。今年は、記念すべき20年目を迎えます。

■活動の目的

「次代を担う子供たちに」美しい自然、安全な地球、平和な社会、豊かで幸せな生活環境を残すため、市民団体・行政・企業が連携し、パートナーシップを組むことで、より大きな力となり、目的を果たすことができると考えています。

■活動の内容

この会の目的を達成するために、次の3つのことを基本に活動していきます。

1. (広める)

市民への啓蒙啓発活動として、「環境フェスティバル」、ストップ・ザ・地球温暖化！「100万人のキャンドルナイト」コンサート、講演会等を開催する。

2. (深める)

会員の情報交換や自己研鑽のための勉強会、ミーティングを開催する。

3. (パートナーシップ)

「市民コンセンサス会議」、ワークショップなどを開催し、市民・市民団体・行政・企業等が一体となり、会津の環境・未来についてのビジョン、町づくりについてみんなで考え勉強し、そして話し合う。

■今年の活動予定

私たちの団体も、今年で20年目を迎

東北6県 福島

EPOトピックス

環境未来・あいづネットワーク

- 〒965-0807 福島県会津若松市城東町3-10
- TEL : 0242-29-0707
- FAX : 0242-29-0706
- E-mail : sunny@seagreen.ocn.ne.jp
- 寄稿：代表 高階 博利 氏

えますが、正直私たちを取り巻く環境が良くなったかと言うそうではなく、地球環境的に言えばさらに悪化していると言わざるを得ないと思います。昨年、東日本大震災にともなう原子力発電所の事故がありましたが、それをきっかけとして、私たちの活動も私たちの生き方も真剣に向き合い考えなくてはいけないと感じています。



*EPO 東北オフィス利用案内

◆各種パンフレットの設置・閲覧・配布

環境にまつわるパンフレットやイベントチラシを設置しています。
EPO 東北オフィスで自由に閲覧していただける他、部数のある冊子については希望者に配布しています。環境学習や講座にご利用ください。

◆ミーティングルーム貸し出し

環境活動、震災復興支援に関する活動に無料で貸し出します。
利用希望者は事前にEPO 東北事務局までお申し込みください。
土日の利用、18時以降の利用をご希望の方は事務局までご相談ください。可能な限り対応いたします。

ミーティングルーム貸し出し

開館日
無 料 月曜日…金曜日
開館時間
10:00…18:00

・環境活動、震災復興支援に関するミーティングや催事にご利用ください。
・利用人数：30名まで

*Web-Siteのご案内

- ・東北6県のイベント情報
- ・環境助成金情報
- ・EPO 東北の動き
- ・エコの日一覧

などの情報を掲載しています。

《大震災に関連した情報》

- ・3.11あの時レポート
環境NPOや環境活動に熱心な企業、個人の「生の声」を掲載しています。
- ・EPO 東北スタッフによる現地レポート
- ・震災支援、復興支援に関する情報

メールマガジン登録者募集中!!

発行：毎月上旬 登録：無料

- ・EPO 東北オフィス情報
- ・環境助成金情報
- ・環境イベント情報

などを配信しています。

*EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO 東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際的研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/

EPO 東北は東北地方環境事務所(環境省)と財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1 オークビル5F
TEL : 022-290-7179 FAX : 022-290-7181
E-mai:info@epo-tohoku.jp URL:http://www.epo-tohoku.jp

勤務時間：月曜日～金曜日【9：30～18：00】
休 日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。